

## 説教ワンポイント

そこにも恵みが

マタイ一五・二二〜二八

けさ教会学校で「皆さんは教会以外でもお祈りしますか」と聞きましたら、生徒たちは「はい、祈ります。困った時とか、テスト前とか…」。

「では、その祈りを神さまは聞いてくれますか」とさらに尋ねると、どの子も口をそろえるようにして「はい、いつも聞いてくれます。必ず神様は私たちのためによいことをしてくださいませ」と答えてくれました。毎週彼ら彼女らと接してきた者の一人として胸が熱くなりました。

神さまはいつも私をみていてくださるという、子どもたちの素朴なこの感覚はとても大事です。「基本的信頼」とも呼べるこの心もちを幼いうちからこそ育んでほしい。キリスト教保育の役割はここにあるといつても過言ではないでしょう。

大人になるにつれ様々な経験と共にマイナス

感情にもみくちやにされてしまう私たち。それらを最後に乗り越えさせてくれるもの、それが幼いころ心に宿した「基本的信頼」です。

この信頼にとどまり続けた一人の女性が今日、聖書に登場します。ユダヤの地から離れてやってきたイエスに近づき、悪霊に苦しめられた娘を助けてほしいと懇願する異邦カナンの女。しかしイエスは先程まで続いたユダヤ人との論争で頭がいっぱい。「子どもたちのパンをとって子犬にやれない…」とのつれない言葉にも女はひるまず、「子犬でもご主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです!」。この切り返しに、さすがのイエスも一本とられたとばかりに「あなたの信仰は見上げたものである」と、新約聖書中で最高の賛辞を送るのであります。最後の最後、祝福をもぎとったものこそ、カナンの女の「基本的信頼」。神さまは必ず私を守ってくださいる! と彼女は信じぬいたのです。